

# 箸荷だいすき

発行/むら芝居と花の里 はせがい

兵庫県多可町加美区箸荷 季刊(年4回)

編集/箸荷新聞編集委員会

URL <http://www.haseshow.com>

2005年12月22日発行 VOL.46

## 11月1日 「多可町」が誕生 板場さんらが3地区縦断記念ラン

11月1日、多可郡の中町、加美町、八千代町が合併し、新しく「多可町」となりました。人口2万5千人、世帯数6,600、面積185平方キロの町の誕生です。平成15年9月から2年2カ月におよぶ合併協議が終了し、このたびの新町誕生となったものです。合併に伴い旧町ごとに地域自治区が設置され、住所表記が変わりました。新住所は「兵庫県多可郡多可町加美区箸荷 番地」となりました。郵便番号や住所地番の変更はありません。

3町合併を記念して11月1日、加美区箸荷の板場里美さんと八千代区坂本の柴田省吾さん(箸荷ご出身)、梅田晋治さん(西脇市)の3人が、3地区を縦断する記念ランニングを実施されました。午前8時に鳥羽の「道の駅・R427かみ」を出発し、山野部坂～八千代区～産坂～中区商店街～多可町役場ゴールの行程で走破。ゴール地点の多可町役場では正午過ぎに、森位正己・町長職務執行者ら役場職員が見守るなか、見事3人は約33キロのゴールテープを切りました。この日は気温も高く、かなりきつかったようです。お疲れさまでした。

## 秋祭り余興大会 今年も大成功に終わる 踊りや芝居に拍手喝采

恒例の秋祭り余興大会が10月8日夜、箸荷むらづくり館で開催されました。会場には町内はもちろん遠方からも多くの方々にお越しいただきました。

まず婦人会の踊りでスタートし、親和会の仮装歌謡ショー、劇団・箸消興行の芝居「竹取物語」、ロマンス会のビンゴゲーム、そしてトリはむら芝居保存会の人情時代劇「15年目の約束」とバラエティに富んだ内容でお楽しみいただきました。

今年も保存会や婦人会の女性たちが化粧を受け持ち、各団体が協力して手づくりの秋祭りができました。たくさんのお花、おひねりをありがとうございました。

公演のあと、大広間で全員で慰労会。明け方3時まで、むら芝居談義に花が咲きました。



婦人会による踊り。全員で記念撮影



劇団 箸消興行による寸劇「竹取物語」

## 紅茶の会に県ふるさとづくり賞奨励賞 全国大会（淡路市）に参加

箬荷紅茶の会（足立はるみ会長・約 30 人）が11月18日、淡路市のウェスティンホテルで開催された兵庫県ふるさとづくり賞表彰式で、県奨励賞を受賞。式には足立会長ら4人が出席し、あすの兵庫を創る生活運動協議会の幡井政子会長から足立会長が記念の楯を受けました。

この日と19日には県立淡路夢舞台国際会議場で「平成17年度あしたの暮らし・ふるさとづくり全国フォーラム in 兵庫」が開催され、研修会や交流会で交流を深めました。午後6時30分から始まった交流会では中学生による人形浄瑠璃の公演、阿波踊りなども行われ、大いに盛り上がりました。井戸知事さんもお出席で、来年10月の全国むら芝居サミットの日程をお伝えし、ご出席をお願いしました。

19日にはふるさとづくり賞の全国表彰式が行われ、活発な集落づくりなどの功績が認められ、「加美町」が内閣総理大臣賞を受賞しました。



表彰式に出席し、喜びの3人

### 加美町のまちづくりに内閣総理大臣賞

財団法人あしたの日本を創る協会、読売新聞社、NHKなどが主催する平成17年度「ふるさとづくり賞」（市町村の部）で、加美町が一番いい賞の内閣総理大臣賞を受けました。「ふるさとづくり賞」は、斬新な発想による個性豊かで活力あふれるふるさとづくりに取り組んでいる優れた「市町村・集団・企業」を顕彰するとともに、その活動に学び、ふるさとづくり運動を普及・拡大するために実施されている表彰制度です。過去に、平成8年度に加美ふるさと塾が、10年度に箬荷地区消防団が、12年度に加美町が同賞で全国ふるさとづくり振興奨励賞を受けています。

このたびの栄えある受賞は、加美町の「みんなが主役のまちづくり」が高く評価されたもの。住民会議で提唱された、26集落の名物・自慢づくり運動、杉原紙の振興、特産品の開発、各種のボランティア活動など、住民主体の数々の活発な活動が「地域の誇りづくりに多大な成果をあげている」と認められました。「加美町」として受賞決定されましたが、このたびの合併により「多可町加美区」で表彰を受けました。

ふるさとづくり賞：各部門ごとの受賞団体一覧

市町村の部	内閣総理大臣賞	兵庫県	加美町
	内閣官房長官賞	大分県	豊後高田市
集団の部	内閣総理大臣賞	茨城県	NPO 穴塚の自然と歴史の会
	内閣官房長官賞	沖縄県	あまわり浪漫の会
企業の部	内閣総理大臣賞	熊本県	肥後銀行（水資源愛護基金）
	内閣官房長官賞	石川県	ぼたんの会（山中温泉女将の会）

\* NHK 会長賞等の主催者賞は5件、奨励振興賞は多数のため割愛

主 催：（財）あしたの日本を創る協会、都道府県新生活運動等協議会、読売新聞東京本社、NHK（日本放送協会）

後 援：内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本商工会議所、全国商工会連合会、（社）日本青年会議所、（財）長寿社会開発センター、（財）こども未来財団、（財）日本宝くじ協会

## 紅茶うどん 大阪国際空港で常設販売 売れ行きも好調

紅茶うどんの製造をお世話になっている朝来市山東町・やくの麵業 KK の細見社長さんのご紹介で、このたび大阪国際空港の売店・レストランで紅茶うどんを扱っていただけることになりました。空港の北ターミナル2階の売店とレストランで販売・提供していただけることになったのです。国内外から毎日多くのお客さんがあるので、めん類はたくさん出ているそうです。これまでに60袋のご注文をいただきましたが、どのくらい売れるか楽しみです。

先日、朝日放送の番組で紅茶うどんを取り上げていただいたことも、扱っていただくきっかけになったようです。また、空港に行かれたときには、ぜひ寄ってみてください。たくさん売れますように・・・。

## 全国むら芝居サミットの日程決まる 平成18年10月28日(土)・29日(日)

豊岡市日高・宵田一座の高階正夫座長からお電話をいただき、来年の全国むら芝居サミットの日程が決まったことの報告を受けました。平成18年10月28日(土)29日(日)の予定で、会場を押さえたとのこと。地元の実行委員会組織を中心に、熱心に準備をしていただいているようです。来年は消防団・むら芝居保存会など大勢でぜひとも参加し、芝居も持って行きたいものです。

昨年の水害から1年。ようやく復興したようですが、被害を受けられた方のなかには仕事のほうで大打撃を受け、元に戻すまでにはまだまだ時間がかかるところもあるとか。昨年は残念ながらお休みされましたが、11月13日には日高文化体育館で恒例の定期公演も実施され、劇団・箆消興行の台本「15年目の約束」をアレンジした作品「10年目の約束」を公演。大盛況だったようです。

## 神姫バス 西脇市まで片道200円 乗車パスの申請を

多可町が誕生して2カ月足らず。これまで中区が行っていた路線バスの運賃助成制度が加美、八千代の両区にも拡大されました。地域公共交通である神姫バスを利用したとき、乗車パスを運転手に見せると乗車料金が大人の場合、町内100円、西脇市・加西市まで200円となる制度です。

例えば、加美区の山寄上から中区の曾我井までなら、大人100円、子ども50円で利用できるのです。山寄上から西脇市までなら、大人200円、子ども100円です。特に、高校生の通学やお年寄りの通院に非常に便利です。この制度を利用する場合は、役場企画課または加美地域局に申請し乗車パスをもらうことが必要です。まだ、申請していないお方は、早めにどうぞ。

## はせがいの動き

10/2 毎年恒例の道づくり。おつかれさまでした。午後は子ども会による神輿準備が行われました。

10/16 紅茶の会が一日バス研修旅行。福崎町のもちむぎの館、香寺の日本玩具博物館などを見学。

11/13 権現さんの御頭渡し。4隣保の今中利充さん・今中雄一郎さんから、3隣保

の今中喬也さん・萬浪善彦さんに御頭状箱が引き継がれました。

11/18 兵庫県ふるさとづくり賞の表彰式。紅茶の会が受賞。

12/3 紅茶の会が全国地紅茶サミット in 鳥取に3人参加。紅茶の生産者や消費者らが集まり、今後の地紅茶の普及方法や地域づくりの活用策などについて話し合いました。紅茶づくりに取り組む静岡・丸子紅茶の村松さん、鳥取・陣構の河村さんの報告を聴き、紅茶特有の味や風味を引き出すのがいかに難しいかを教わりました。全国各地から集まった皆さんのお話を聴き、紅茶のもつ魅力、奥深さを改めて感じました。箬荷紅茶の会の足立会長も事例報告し、紅茶、うどん、クッキー、アイスなどの取り組みを紹介。また、佐賀県で紅茶の専門店を経営する岡本さんに「はせがい紅茶」をお渡しし、味が良ければ店頭に並べていただくこともお願いしました。

12/4 北はりま田園空間博物館のサテライト巡回講座で、西脇市や加古川市などから28人が箬荷むらづくり館にお越しになりました。まず、むらづくり館和室でご昼食。食後は、「はせがい紅茶」を飲みながら、紅茶の会の皆さんとの紅茶談義に花が咲きました。続いて場所をホールに移し、田園空間博物館の山崎さんの進行で、インタープリテーションが始まりました。今年10月の秋祭りの模様をビデオでご覧いただき、そのあと実際にむら芝居体験をしていただきました。演目は今年、むら芝居保存会が上演した時代人情劇「15年目の約束」の1シーンで、保存会の役者陣が指導に当たりました。参加者のなかから、役者6人と幕引き、拍子木を打つ人を選んでもらい、それぞれ演じてもらいました。皆さん、なかなかの役者で、カツラを着け、刀を持ったの熱演に、大きな拍手が送られていました。皆さん、とてもお上手でした。

帰りには、はせがい紅茶、紅茶クッキー、紅茶うどんをたくさんお買い上げくださり、ありがとうございました。また、箬荷にお越しいただき、芝居をご覧いただきたいものです。

## の・ん・べ・え・編・集・室

「ありがとう加美町」

昭和30年1月1日、杉原谷村と松井庄村が合併し、加美村が発足。その後、同35年に町制施行で加美町となりました。合併からちょうど50年の節目の年に、3町合併で加美町が消えることになりました。

10月29日には加美町民体育館で閉町式が開催されました。町営ケーブルテレビでは会場の模様が生中継され、町内家庭に放映されました。私は職場の引越作業があったので、式典もテレビも見ることができませんでしたが、町民憲章の朗唱、町長の式辞、中学生の作文朗読、町旗の収納、万歳三唱などが行われ、感動のセレモニーだったようです。夜にはかみテレビで特別番組「振り返るかみ50年」が放映されました。改めて、先達の努力により今日の加美町が築かれ、いまの住民によってすばらしいまちづくりが行われていることを実感しました。新生「多可町」に希望を持ち、加美町のいい部分を引き継ぎながらまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。さようなら、加美町。あ・り・が・と・う、加美町。・・・・・・・・

今年もまもなく終わりです。1年間いろいろお世話になり、ありがとうございました。また、来年もよろしく願いいたします。平成18年が皆さんにとって良い年になりますように……。良いお年をお迎えください。

### 【参考データ】

昭和30年1月1日 「加美村」発足

合併時の人口 8,810人 世帯数 1,676 本籍人口 11,567人

面積 84.3平方<sup>キ</sup>。東西 6.8km 南北 18.7km

箬荷の世帯数(当時) 66戸